

C-1

## とり小屋

開催時期 1月7日前後

会場 各地域



とり小屋（鳥小屋、酉小屋の表記はあるが、いずれも確定的でないことから、ひらがなを使用）は、古くからいわき地方に伝わる、正月送りの伝統行事で毎年1月7日前後に行われます。当初は正月送りを準備する仮小屋でしたが、これがメインとなったものです。

昭和時代初期まで、地域の青少年を主体とした行事でしたが、風紀上や消防上から弊害が大きいとしてその存続が問われました。昭和20年代から30年代にかけては、教育上、とかく批判的の的となって、廃止が相次ぎました。しかし、昭和40年代以降から復活する機運が高まっています。中心となったのは、かつてとり小屋を経験した壮年層でした。判明している限りでは、昭和42年（1967）に関田で、昭和50年（1975）に沼部で、昭和55年（1980）に錦町馬場で、それぞれ復活しています。

近年では、元々の農業行事との関わりはすっかり影をひそめ、地域の団結や伝統行事の継承などが開催の理由となっています。勿来地区では、約15か所でとり小屋が行われています。

しかし、とり小屋は平成23年（2011）3月11日に発生した東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所事故による放射線を気にかける保護者の申し入れにより中止を余儀なくされるケースが増えました。とり小屋を建てる層の高齢化や後継者の流出、子どもの参加数減など、もともと維持困難な要因が内在していて、今回の震災がこの引き金となったとも考えることができます。

その一方で、平成28年（2016）1月、岩間海岸では岩間町のとり小屋が震災後5年ぶりに復活しました。かつては岩間友好会で開催されていましたが、復活のとり小屋は、小浜町と共同による開催となりました。

## お問合せ

各地区の区長に確認してください。

